

2022年3月16日（水）

「対面授業における感染防止対策」説明会【説明会の中で出された質問と回答】

	質問	回答
1	伊東先生がおっしゃっていた、岸田首相が事業所における濃厚接触者の特定を求めないというニュースがあったが、授業内での対面出席者の把握に影響があるのでしょうか？	岸田首相の発言は、あくまでも「事業所が特定する濃厚接触者」であり、「学校」と明言されたわけではなく、また保健所に対して「濃厚接触対策を辞めるように」と命令したわけでもありません。このことを前提とした上で、大学では引き続き濃厚接触者の特定は行っていく必要があると思います。ただ、授業中にそれを厳密にするかどうかは、今後検討していく必要はあるのかもしれませんが。（伊東先生）
2	ロールプレイの実施を前提とした授業では、学生間の十分な距離を常に保つことが難しいのですが、感染防止対策を考えると、こういった形式の授業の実施は難しいのでしょうか。	学生の発声、ディスカッションを伴う授業や身体的距離の確保が難しい授業においては、マスク着用および換気に努めてください。活動内容の必要に応じ、マスクと併用してフェイスシールドを着用させることで、目などからの飛沫感染を防ぐことも有効だと思います。（事務局） ロールプレイをする場合は、斜めに座る、対面で座らせる場合はアクリル板を間に立てる、換気を必ず行うといった方法でご対応いただくことで、感染リスクを減らすことが可能であると思います。（伊東先生）
3	消毒液などの感染防止対策の物品を借りの場合、どれくらいの数を支給していただくことができるのでしょうか？	受付にて、どの程度使われたいのかご相談ください。また、大量に使われる場合は、事前に受付にご連絡いただきますようお願いいたします。（事務局）
4	授業内で用紙等を配布したり回収したりする際に気をつけることや推奨する方法があれば教えてください。 また、配布時は、前列の学生にプリントを渡して後ろに回してもらうのか、教員が教室内を回って一人ずつプリントを渡していくのか、どちらの方が感染リスクは低いのでしょうか。	物品を介して感染するケースも皆無ではないですが、飛沫感染での感染が主となっているため、リスクとしてはゼロではないが、非常に低いという状況です。ただし、様々な物品を触った後には、必ず手洗い等することでリスクを下げる事が可能です。また、ご提示いただいた配布方法は、印象からすると、どちらも感染リスクは低いと考えています。（伊東先生）

2022年3月16日（水）

「対面授業における感染防止対策」説明会【説明会の中で出された質問と回答】

	質問	回答
5	「教室の窓を開けなくとも、換気の基準をクリアしている」とのことですが、「換気の基準」とは何でしょうか？	「換気の基準」とは「毎時2回以上の換気をする」というものです。もちろん、教室の窓やドアを開けることを禁止しているものではないので、適宜窓やドアを開けていただいても問題はございません。（事務局）
6	情報処理教室では、感染症対策定員が設けられておらず、100％定員での運用となっているようです。	身体的距離を確保できている場合は、感染症対策の定員を設けていない場合もあります。（身体的距離の確保は、AとBが隣同士に座っている場合、AとBそれぞれの身体の中心線の間が1メートル以上ある、という状況になります）（事務局）

※説明会での内容について、以下の通り訂正します。

2021年4月より、濃厚接触者を把握するために、全ての教室の座席にQRコードを貼付しました。

これにより、当該座席に着席し、登録した学生の情報が把握できるようになりました。

<http://www.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=2041>

上記QRコードの導入に従い、濃厚接触者の把握を目的とする「対面出席者の把握」の推奨は行っておりません。
（成績評価に含める授業内での出席管理は上記QRコードでは対応しておりません）